



HIV 看護・介護の質の向上と学校での HIV 予防教育実践に関する研究

研究分担者：佐保美奈子（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

研究協力者：下線はグループリーダー

1 看護職のボトムアップとエンパワメント

山田加奈子（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

高橋 弘枝（公益社団法人大阪府看護協会 会長）

千葉 鐘子（公益社団法人大阪府看護協会 専務理事）

中垣 郁代（公益社団法人大阪府看護協会 教育部）

久光 由香（近畿大学附属病院看護部 感染症看護専門看護師）

大野 典子（日生病院看護部 感染症看護専門看護師）

橋本 美鈴（大阪府立大阪はびきの医療センター 感染管理認定看護師）

辻岡麻衣子（国立大阪南医療センター）

北畠 朋子（藍野短期大学看護学科）

鈴木 光次（訪問看護ステーション てとと）

立花 久裕（訪問看護ステーション 町の看護師さん八尾）

上原 優子（大阪大学医学部附属病院 精神保健福祉士）

2 介護保険施設における教育と研修のアプローチ

井田真由美（堺市立総合医療センター 看護部）

泉 柚岐（信愛女学院短期大学 看護学科）

西口 初江（羽衣国際大学 人間生活学部）

豊島 裕子（大阪市立総合医療センター 看護部）

熊谷 祐子（みのやま病院 看護部）

岡本 友子（足立病院 看護部）

繁内 幸治（BASE KOBE 代表）

石原 章雄（あいラブ天王寺ケアプランセンター）

3 高校生への HIV 予防啓発と養護教諭への教育と研修

古山 美穂（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

北川未幾子（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

橋弥あかね（大阪教育大学 教育学部 養護教諭養成課程）

工藤 里香（京都橘大学 看護学部）

高 知恵（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

大川 尚子（関西福祉科学大学 健康福祉学部）

池田麻衣子（大阪府教育センター附属高等学校 養護教諭）

眞弓 靖子（大阪府立緑風冠高等学校 養護教諭）

賀登さおり（大阪府立泉北高等学校 養護教諭）

牧之内純子（特定非営利活動法人ピープルズホープジャパン）

研究要旨

地域 HIV 看護・介護の質の向上と拡大戦略に向けて、① HIV サポートリーダー養成研修の受講生募集地域を大阪府内から近畿ブロックに拡大して広報した。②介護保険施設で勤務する看護・介護職への研修を企画・実施した。③学校基盤の HIV 予防教育の強化のために、高等学校教諭との連携強化に取り組んだ。研究テーマである、HIV 看護・介護の質の向上と学校での HIV 予防教育実践についての基盤ができてきた。研究班メンバーの組織力強化のために、年 2 回の班会議に加えて、食事会を 4 回実施し、あらたに高野山宿坊で合宿をおこなった。

研究目的

地域における HIV 看護・介護の質の向上をはかるために、企画した研修や講義前後の変化を明らかにし、教育効果のアップを図る。

研究方法

(公社)大阪府看護協会と連携しながら、医療職と看護学生・養護教諭課程学生を対象に HIV サポートリーダー養成研修を実施する(年 2 回、各 2 日間)。介護職を対象とした研修を介護保険施設に出向いて実施する(3施設程度)。高等学校への出前講義は、一斉講演を 15 校程度、クラス単位の講義を 2~3 校に実施する。HIV 研修前後の知識・態度の変化をアンケート調査した。

(倫理面への配慮)

アンケートの実施にあたっては、学会や報告書において内容を発表することについて了解を得たうえで、協力は自由意志であること、匿名での記入であること、記入した内容については、個人が特定されないように配慮すること、調査結果は研究班のホームページで閲覧可能であることを伝えた。調査について、大阪府立大学看護学研究科研究倫理審査(申請番号 2019-24)の承認を得た。

研究結果

I 看護職のボトムアップとエンパワメント

公益社団法人大阪府看護協会との協働により、第 19 回までの累積受講者数は 380 名である。6 月 21-22 日開催の研修には、他府県からの参加者が 63% であった。また看護職・助産師だけでなく、医師・臨床心理士・ケースワーカー・主任介護支援専門員・歯科衛生士・保健師の参加が増加した。

三重大学の HIV 診療チームから依頼があり、2 月に「性の多様性」というテーマで講演予定である。

そこでも研究班の取り組みを紹介する。

保健師など多職種との連携強化のため、近畿ブロック府県感染症対策課に研修の案内を送付したところ、保健師・心理職からの応募が増加した。

HIV 診療拠点病院ではなく、HIV 専門医がいなくても HIV 検査をしている限り、初期対応ができることを目標に、今後も HIV サポートリーダー養成研修を継続し、看護職のボトムアップを図る。特に臨床で働く看護職が高校で出前講義をおこなう取り組みは他に無い取り組みであり、普及に努めたい。

II 介護保険施設で勤務する看護・介護職への研修を企画・実施

今年度は介護施設での出前講義を堺市内 2 か所でおこなった。60 分という短時間でも、HIV の最新治療について正しい情報を伝えると、HIV 陽性者の支援について理解が得られた。HIV に対する医療が進歩していること、「U=U」などの新しいキャンペーンについても伝えた。

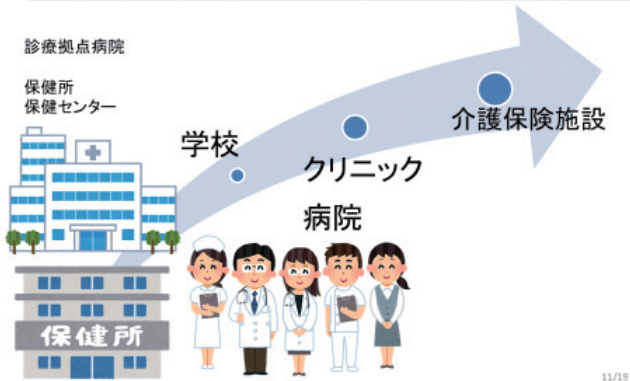
介護施設の職員への標準予防策についての教育はまだ不十分である。知識だけでなく、手袋・マスク・エプロンの正しい装着やケア後の処理についても、実技を 2 回おこなう機会を作るなど、工夫が必要である。標準予防策について自信を持っていただくと、感染力の低い HIV 陽性者の受け入れもスムーズに進むと予測できる。

III 高校生への HIV 予防啓発と養護教諭への研修

看護職が高校の各教室に出向いて、2 コマ連続で「おつきあいのマナー」「性感染症予防」について出前講義を大阪府立貝塚高校で実施した。講義後に、看護師志望の高校生への相談会も実施し、高等学校との協働を強化できた。2 年間の取り組みを 11 月のエイズ学会で発表した。「おつきあいのマナーかるた」は改訂を重ね、大阪府立大学セクシュアリティ教育

プロジェクトと(株)TENGAヘルスケアが協働し、日本思春期学会の後援を得て、12月から医療・教育関係者にテスト販売をスタートできた。

地域へのアウトリーチ活動



考察

HIV サポートリーダー養成研修と高校生への出前講義、大阪府看護協会が主催する看護職研修、大阪府教育委員会が主催する研修、高校生への出前講義について、次年度以降も実施していく。研究班メンバーは臨床、教育現場で多様なバックグラウンドをもって活躍するエキスパートであり、組織力強化のために、ミーティングの回数を増やし、今年度は高野山での合宿もおこなった。多様な性や生を生きる HIV 陽性者の理解増進の土台として、研究班メンバーの理解と支援に取り組むことも重要である。

結論

看護・介護・学校現場でのケアと予防の拡大のための基礎作りが出来たので、さらに研修・教育内容を洗練させ、質の向上をはかる。臨床で働く看護職が高校で出前講義をおこなう取り組みは他に無い取り組みであり、普及に努めたい。研究班メンバー同士の理解や支援が進む取り組みを今後も続けていく。

健康危険情報

該当なし

研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子、高知恵、二木貞夫、土井章裕、岡本友子、立花久裕、辻岡舞衣子、北島朋子、白阪琢磨：臨床看護職による大阪府立 A 高校におけるクラス単位 HIV 予防教育の実践。第 33 回日本エイズ学会、2019 年 11 月、熊本城ホール

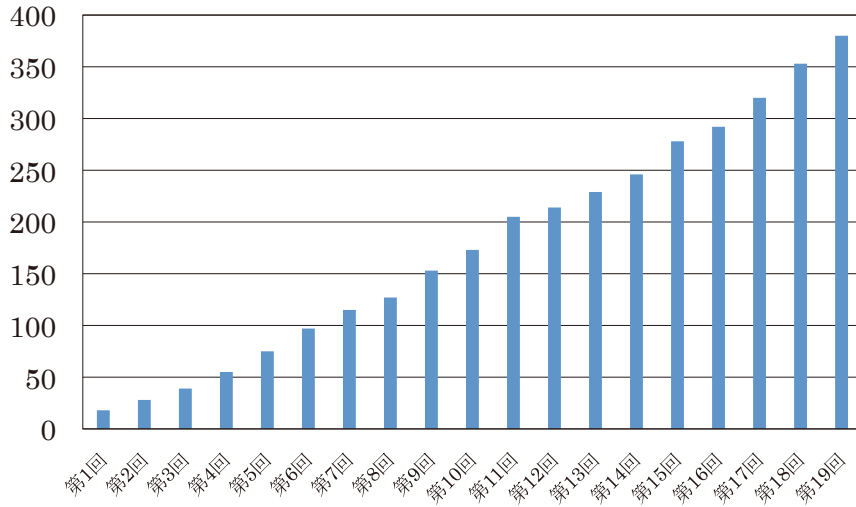
知的所有権の出願・取得状況 (予定を含む)

該当なし

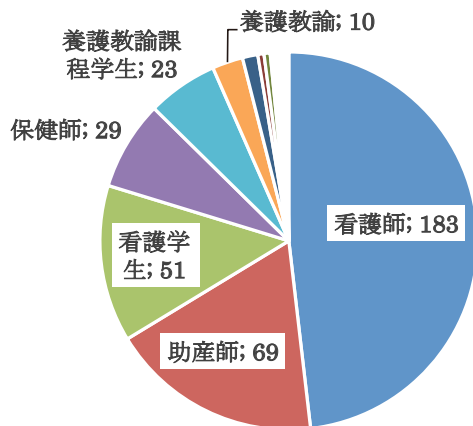
HIV サポートリーダー養成研修のまとめ (第19回まで)

1. 受講者数

これまでの受講者数は380名である。

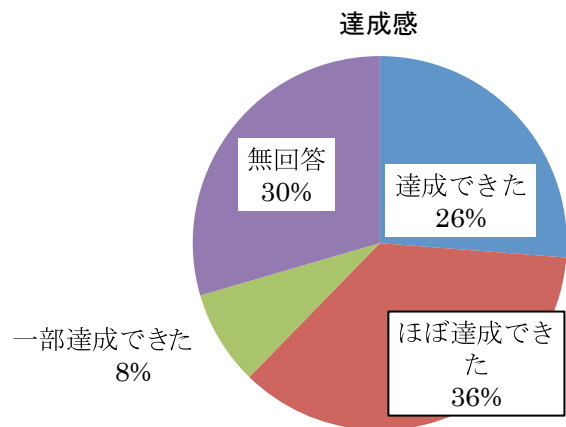


2. 受講者の職種



5. 研修目標の達成度

研修目標：セクシュアリティ、HIV感染症について広く学び、HIV陽性者への初期対応・介護職研修・高校生へのHIV予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る

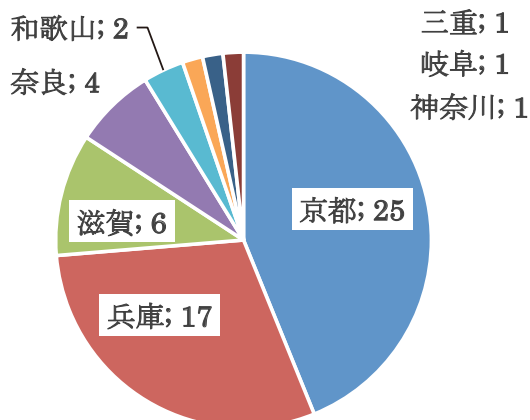


3. 調査票の回収数 (第18回、第19回)

参加者59名 回収数56 回収率95%

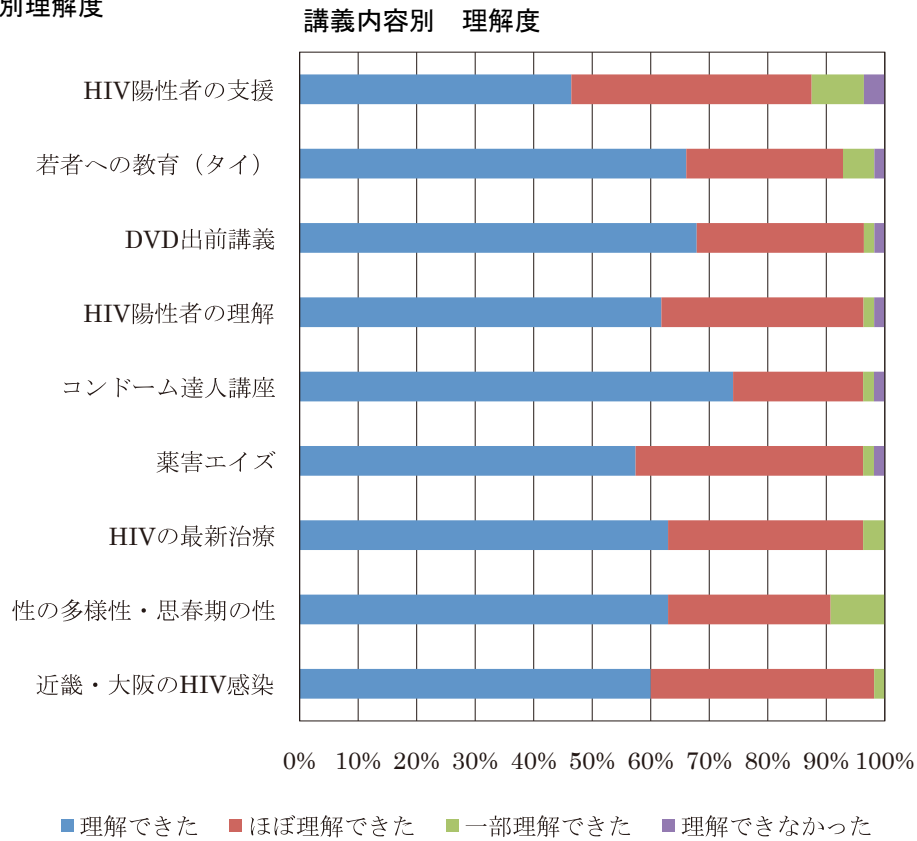
4. 受講生の居住地

受講生380名中57名が他府県からの参加であった。



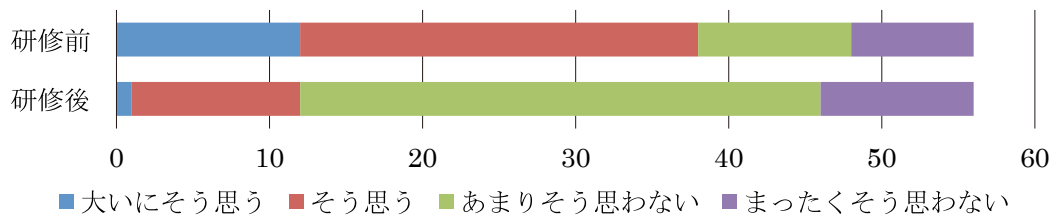
「達成できた」「ほぼ達成できた」者が62%であり、研修内容が現場の声を多く反映し、体験的に学習できる内容であったことが、後述の自由記載からもうかがえる。

7. 講義別理解度

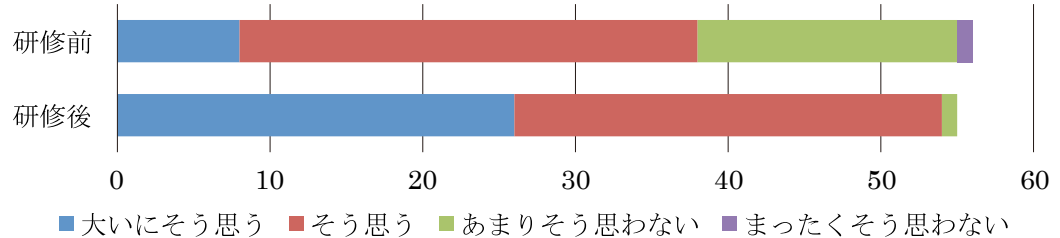


8. 態度の変化

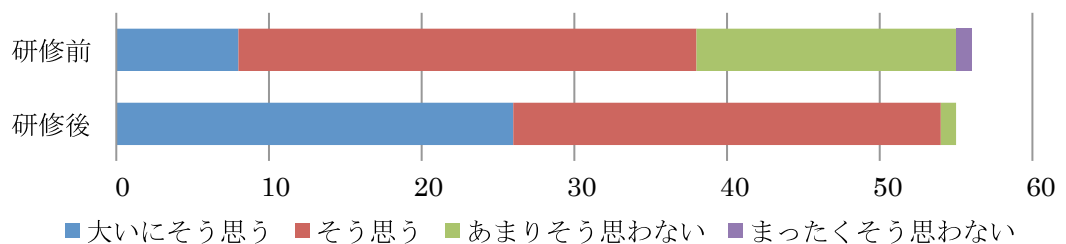
性のことを人前で話すのははずかしい



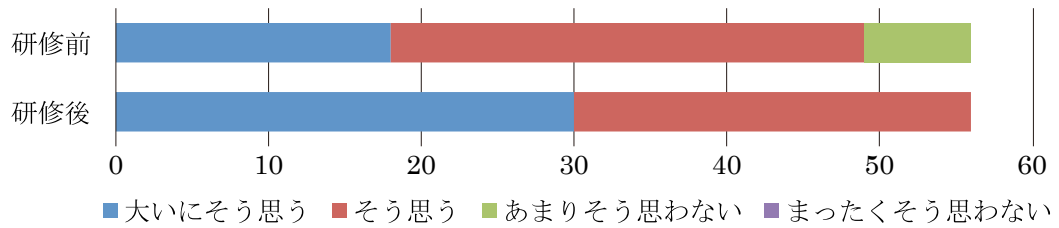
自分自身の性についてきちんとむきあっている



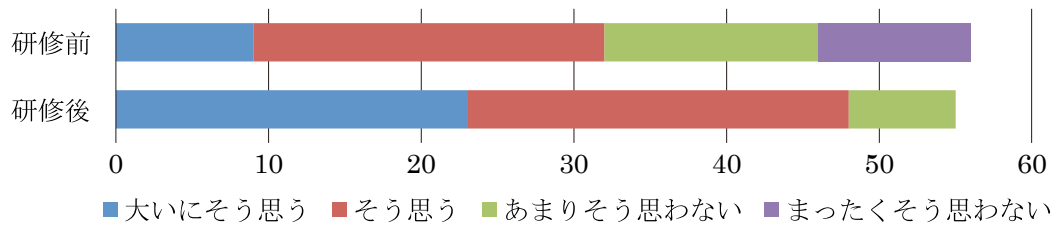
HIV看護について興味を持っている



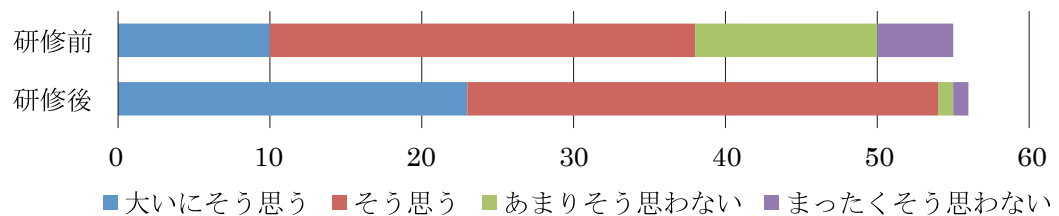
性欲は基本的な欲求の一つであり大切にしたい



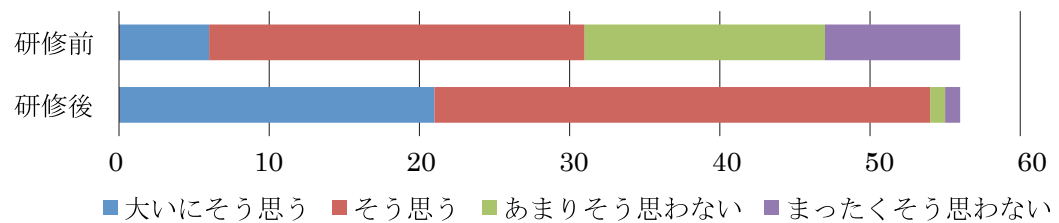
HIV予防教育の出前講義に積極的に関わりたい



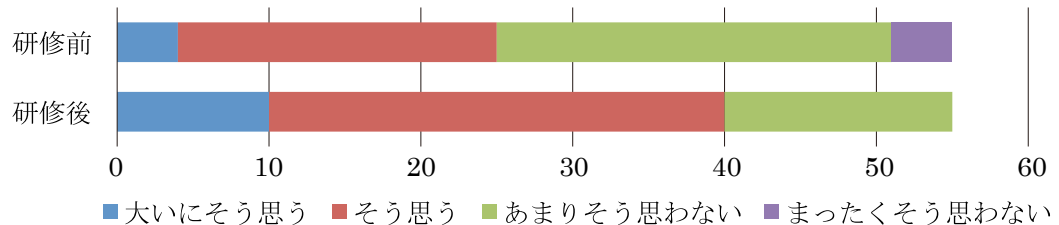
セクシュアルヘルスの増進について学びたい



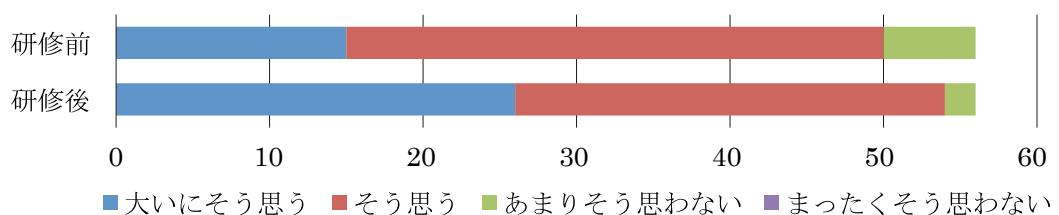
自施設で、HIV陽性のケアへの準備をしたい



グローバルな広い視点で看護を考えている



他者と深く関わることは喜びである



8. 自由記載の内容 (令和元年度開催の第18回・第19回分のみ、原文のまま、すべて記載)

①看護職が地域の高校生に出前講義をおこなうことについて、職場の理解・自分自身の課題など自由にご意見をお書きください。

(第18回)

- ① 学んでもらう機会を作り、1人でも正しい知識を持ってもらうことが大切と思う。
- ② 職場の理解が得られ、自身が積極的に意思があれば、すすめられるものだと思う。
- ③ 他の保健師の方と違い浅く広くいろんな仕事をしてきたので、今の市の保健師アルバイトでやっと性教育を仕事にできて喜んでます。(実施する前に期限切れるかもですが)ただ市の職員として出向するので、保健体育の内容に準拠することはもちろん、岩室紳也先生のようにコンドームの使い方までどうにかアピールできないものかと思案しています。佐保先生の出前授業のお仲間になりたかったです。厚労省や文科省に、英語や数学よりも保健体育や家庭科・生きる力・自己肯定力を培う教育になるようぜひ働きかけて下さい！Safer Sex、HIV検査をうけずにすむ生き方を模索できる教育が必要かと思いました。
- ⑤ 私はNsではありませんが、医療職が出前講義を行う事はとても良い事だと思いますし、Nsがすることはとても適切だと思います。私は歯科衛生士であり、当院のHIVチームに参画し、自分の知識のなさや、「知らない」という事を痛感し、現在勉強をしています。同じように歯科医療従事者の認識不足があり、歯科医療従事者への教育の推進をしていきたいと思いました。
- ⑥ 看護基礎教育でもっと教育すれば、それが当たり前としてとらえる看護職が増え、ハードルが下がると思う。
- ⑦ 出前講義を行う前に自分自身が性と向き合い、性に対してオープンであることが大切だと思います。職場でも性に対する捉え方や感じ方は人それぞれだと思うので、まずは個別性を尊重することだと思います。
- ⑧ 今回の研修を通して一般の人に対してHIV予防に関する知識を深める活動を行う事の重要性を改めて感じました。ただ、私自身今回の研修で知ったことも多く、看護職だからといって即人に教えられるほどのHIV予防に関する知識を持っているわけではなく、もっと、HIV予防に関して、最新の知識や動向について、自分自身が学ばなければならないと思いました。
- ⑨ 実体験からの話が出来、高校生にも伝わりやすいのではないと思う。しかし、倫理的な事なので、まずは委員会に通さなければならず、少々大変。高校生が対象となると進路も含め興味があると思われる。私の職場には感染症科があり、HIVに対して受け入れは良い。しかし、地域の受け入れが遅い(知識が古い)施設など、出前講座をされている方に来てほしい。HIV陽性患者を地域へ退院！！
- ⑩ 今回学んだ事について出前講義の存在を知りませんでした。ただ知識を身につけることはとても大切な事で、積極的に出前講義を行うことが必要と思いました。拠点病院で働いているという自覚をもち、知識を深めたいと思いました。
- ⑪ 今回の研修に参加するまで、出前講義について知らず、考えることもなかったです。看護職が医療職ということで行うにあたって高校生にも理解してもらえるのだと知り、興味を持ちました。職場が人手不足ということもあり、理解してもらえるかは疑問であると思いました。
- ⑫ 感染予防について看護職が高校生に出前講義することは、意義が大きいと感じる。看護学部の教官に講義依頼もあるが、臨床の看護師ならではのお話もインパクトがあり、効果的であると思う。職場の理解としては地域貢献は病院にとって大きな役割であり、予防教育は今後看護が活躍する必要があると考える。病棟ナースがもっと地域に出ていけるようになってほしい。
- ⑬ 仕事だと割り切れれば講義で話をしたり、伝えることができそうだと思うが、娘に家庭内で同じようにできるかと言われたら、出来る自信がありません。娘のセクシュアルな部分に近親者が踏み込んでしまうことに抵抗があります。伝えてあげたい気持ち、伝えないといけない親としての責任感で日々ゆらいでいます。
- ⑭ 当所では、毎年管内中学校及び高等学校へ出前講義を行っており、理解ある職場だと思う。自分自身の課題としては、伝える側として知識はストックしても、出前講義等のアウトプットする際、自分の価値観がじゃましてしまうのではと心配する(うまくつたえられないが・・・)対象者へ効果的に伝えるにはどうしたらいいか、悩んでいる(より、リアルに実感してもらうには等)
- ⑮ 私は心理職ですが、カウンセラーとして学校で授業を行うことがあります。教員でない人が授業をするのは、準備や進め方など大変なことも多いと思いますが、自分自身の学びにもつながることが多くあります。教科書的ではなく、現場で働いている人にしか伝えられないことや視点もあると思うので、もっと普及してほしいなと思いました。身体のこと、性のこと、下半身のこと・・・、大人になってもわからないことがたくさんある。語ってくれる人がいる事で、心配になったら相談してもよい安心感につながっていくと思います。
- ⑯ 現在の職場では院外(高校など学校)で講義を行う機会がなく、出前講義については考えたことがありませんでした。今回の研修で高校へ看護師が講義を行うことに意義があるという話を聞き、興味がわきました。今は講義を行う自信もないですし、職場の理解(日程調整や出張について)も難しいと思います。

- ⑰ 地域の高校生への出前講義は、高校から希望があった時のみ実施であり、まだかわりのない高校へ、自分から出向いていかなければならないと感じた。そのためには、HIV 予防教育・性教育について、どうして高校生に伝えたいのか、もっと明確な意思を自分の中で整理しなければならなかった。
- ⑱ 出前研修を行うにあたり、セクシュアルな用語をためらいなく発語できるかどうか、その時の自分の態度がどう映るかとても不安である。教師・保護者の反応が気になり、言いたいことも言えず、終結してしまう不安もある。
- ⑲ 教員でなく、医療職者から HIV/AIDS の知識を伝えることは、大切なことなのだと感じた。また、自分自身の課題としては、どのように伝えたら理解しやすくなるのか、どの情報を特に高校生に知ってもらいたいのかという、伝えるスキルや伝える情報の精査が不十分なので、この研修で学んだことを持ち帰ってより理解を深めたいと思います。
- ⑳ 水の交換、粘土などのアイスブレイクは取り入れてみたいと感じた。小中高それぞれの世代に応じた教育の仕方、伝え方をどうしたらいいのだろうかと感じた。
- ㉑ 初日の動画であったクイズを何問か間違えてしまっていて、自分の持っている知識の間違いを明らかにすることができ、かつ HIV について新たに知識を得ることができました。学んだことを相手に言葉で伝え、安心して治療や生活をしてもらえるようにしていきたいと思います。
- ㉒ 今回の研修において、高校生への出前講義というものを初めて知ったのですが、HIV や AIDS、性感染症予防においてとても重要であると感じました。私自身、周囲の方で、思春期の子を持つ保護者から、子どもの性教育について心配だという声や、HIV にかかったら死んでしまうんだよね？といった間違った認識の声を聞く機会があったため、このような活動が今後ももっと広まったらいいなと思いました。
- ㉓ 講師の方が話されていたように教師ではなく外部講師しかも専門職が来校して話すということが生徒にとって聞くという姿勢につながると感じました。ただ私の地域では、保健所から市内の高校に働きかけをしても希望する高校が少ないのでどうしたらよいか悩んでいます。又、保健所職員が実施し続けるのは難しい（希望校数が増えた場合）ので、大阪のような医療機関スタッフを養成しているこの取り組みはよいシステムだと思いました。
- ㉔ 看護師が高校生に講義を行うということも、知らなかったなのでそういう活動を行っていることに興味を持ち面白いと思った。私は講義を行う知識等はないが、病棟内のスタッフに本日知ったことを話したいと思った。
- ㉕ 職場の理解が得られるかどうかが一番の課題になるかと思いました。また、親に対しての講義も必要であると感じました。
- ㉖ 高校生等、若い世代への性教育の大切さを感じる一方で、職場の人員不足により「性教育出前講義しますよ」と広く周知できない現状がある。依頼があれば実施しているが、先輩方がつくった既存のパワーポイント等で講師としていく職員が知識をしっかりと身につけて出向いている訳ではないのが課題。
- ㉗ 高校生頃の生徒に対して先生等ではなく看護職として話すのはとてもいいと思った。医療職に対する信頼感で話が素直に入ってきやすいと感じるし、臨床でのことをまじえて話をされるというのを聞いて、さらに説得力を増すと思った。
- ㉘ 学生に性教育をしていることが知っていたが、同じ看護職が出前講義をしていることを知らなかった。デリケートな思春期に伝える工夫を多く用いて、講義していることが勉強になりました。相手に伝える難しさは出前講義に限らずあるので、自身の仕事にも還元したいと思います。
- ㉙ 生と性、感じ方や向き合い方、伝え方を考えながら今回の研修を受けさせていただきました。いろいろな人がいること、自分のことも相手のことも大切に行動を選んでほしいこと、性感染症予防の具体的な方法を学生さんたちに伝えられると良いと感じています。
- ㉚ 院内スタッフへの HIV に関する教育ができていないので、高校生に講義をする前にまず院内に向けてということを上司から言われると思います。わたし自身もそう思う部分はありますが、大切な内容なので若いうちに早く高校生に知ってもらいたいという気持もあり、出前講義に関心があります。人前で話すこと自体があまり得意ではないのと、多様性に配慮しながら高校生に響く内容を考えるのが難しそうだなというところで課題は感じます。
- ㉛ 私の職場では3～4年前まで予防教育を実施していましたが、ここ数年は、学校側からの依頼がなくなり、実施していない現状でした。そのため職場の職員の中でも、予防教育を経験したことのある人がいなかったり、10年以上前に経験したことのある人ばかりで、職員の経験不足も課題の1つでした。今回の研修を受けて、HIV の基礎知識から、陽性者の支援、予防教育の実際を学ばせていただき、新たに知ったことが多く、今回学んだことを職場で活かせるようにしていきたいと思います。
- ㉜ 日々の勤務の中で出前講義に赴くことは、職場の理解は不可欠であると感じた。又自身が実践するとなった場合、知識をしっかりと身につけて自信をもって話ができるようにしないといけないと感じました。又年齢ギャップもあると思うので、今の中高生がどのように性について考えているのかを十分に検討する必要があると感じました。

(第19回)

- ① 今までは、業務の一つであるという認識が強く、わかりやすく説明したいという程度の思いだったが、今回の研修をうけて、若い世代に正しい性知識を持ってもらうことが、これから生涯にわたってどれだけ大切か、ということを考えさせられました。看護職として使命感をもって取り組みたいと思いました。
- ② 看護職だからこそ、問題を抱えた患者さんをたくさん見てきており、その中から気になったことを専門的に学ぶことで知識を深め、それを職場に広めれることができれば全体でもっとその問題を理解できるのではないかと思う。その知識と経験を、高校生などこれから体験するであろう人たちに教えていくことはとても大切なことだと思う。
- ③ 看護職として、伝えられることはたくさんあると思うので、積極的に講義が行われていけばいいなと思います。
- ④ 学生に性教育をすることも大切ですが、大人（子を持つ前でも、持った後でも）にこそ正しい性についての知識と、性の多様性などについての講義をする必要があると、私は考えています。日本では、子どもが性について学ぶ機会が少なかったり、性について親に相談しにくい環境であるのが現状だと思います。それは、今まで性教育が不十分であったために、大人の中に「性について語るのには恥ずかしいこと」という考えを持った方が多いからであると考えています。そのようなことを改善するためにも、私は大人に向けた性教育にも取り組んでいきたいです。
- ⑤ 高校生にとって、とても大切な知識だと思います。自身もさらに知識を深めて高校生に届けたいです。
- ⑥ 高校の学校の先生の受け入れ、養護教諭の先生などが積極的に性について深めたいとか学生の心と身体を守っていききたいという意識がないと、なかなか学校に入りこめない。先生方の意識・知識の普及も必要なのかなと思いました。又、セクシュアルヘルスについてや最新の治療法などについても自分自身で学びアップデートしていく必要があると思いました。
- ⑦ 養護教諭は、学校と医療機関などをつなぐために大きな役割を果たすべきであると思うので、広い視野を持ち看護師の方とも連携していきたいです。来年から学校現場に出ることにまだ知識不足のことが多く不安もあるが専門的なことは専門職の方に積極的に頼ることも必要なのかなと考えました。
- ⑧ 何か感染の専門NSであったり、HIVの専門的な学びを受けている方であれば良いとは思いますが、何も専門でもない人が出前講義に行くとなると職場として色々な意見が出そうな気もしますが、やはり、これからの時代は早期発見・早期治療の前に「予防する」ということが最も大切となってくるため、NSが行うということ自体には意味があると思います。
- ⑨ 性について自分自身きちんと理解できていなかったなと感じました。私自身は高校生の時、もっとちゃんと聞いていればよかったと大人になって感じたので、心も身体も大人になる前にきちんとした知識をつけることはとても重要だと思います。
- ⑩ ワークショップが参考になりました。実感・体験することが行動変容につながるのでは…と思いました。
- ⑪ 地域の高校生に対して出前講義を行いたいと私個人は思っている。私は日常の仕事で「死」を迎えようとする人と接することが多いため「生」「性」「死」ということを若い世代に考えてほしいと思う。この3つは話をすることが日本ではタブーとされているように感じる人が多い気がするからです。私は出前講義を行いたいと思っても所属が1000床近くの病院となるため思うように活動できないのではないかと考えています。職場で少しでもAYA世代といわれる人たちに「性」について考えるきっかけがくれたらいいなとは思いますが。
- ⑫ 必要なことだと感じる。職場でも高校生への出前講義や学園祭でのブース設置を行っていて、高校生とかわることがある。話をするとやはり多くの情報や知識があって、すべてわかっているように話をすることが実際には見たこと、触ったことがないということがあった。たくさんの情報から正しい知識をみにつけ、自分や大切な人のことを考えれる機会が必要だと感じました。
- ⑬ 学校の教員が講義を行うより、専門である看護職が講義を行うことに意味があると気づき、自分にもできることが何かあるのではないかと感じました。高校生への出前講義に参加する機会があるので、本日学んだ事前調査や準備を活かしていきたいと思っています。
- ⑭ 出前講義の限られた時間で伝えられることは限られているので、特に予防行動の大切さについて伝えたいと思います。
- ⑮ 自分自身が正しい知識を持ち、人に伝えられるレベルでないと難しいかなと思います。研修に参加して、伝えていくことはとても大切だと感じました。性が低年齢化しているので、小学生・中学生も発達段階に合わせた講義をしていく必要があると思いました。研修内容の中で、タイでは、キュウリが男性器に似ていることから、コンドームの使用の練習に使われていること、日本?ではズッキーニ?という話がありましたが、個人的にですが、農家の方は食べてもらうようにと作っておられるので、教材として適切なのかな?と思うところはありました。特に学生対象の講義では、使用する教材等よく検討する必要があると思いました。
- ⑯ 出前講義を看護職がおこなうことをこの研修を受講するまで考えたことがなかったです。性について人前で話すことにまだ抵抗はありますが、必要性については理解できました。

- ⑰ 生同士でからかいの対象になったり、全く興味のない生徒も講義を受けなければならなかったりするなどの問題があり、配慮をするのが難しいのかなと思う。HIV、LGBT、性的少数者のことを下手に伝えてしまったら、生徒がそういった存在を認識することで、いじめの対象になったり（例：あいつホモじゃないの？）自分自身がそうであると気づくことで悩んでしまうことにつながるかもしれないと思った。
- ⑱ 課題として知識がない、うまく伝える自信がないがありました。来年、学校に出前を行う予定です。とつても不安ですが、2日間の講義をヒントにやってみよう！と思います。
- ⑲ まだ学生なので、現場のことは全てわかりませんが、今回の研修を受けて、学校側がしっかり計画を行って依頼しなければならなかったと思ったので、将来養護教諭として働く際に職場の人とも相談しながら計画・依頼することが大切だと思いました。
- ⑳ 看護職の方のほうが、実際に HIV 陽性者と関わる機会があるかもしれないということと、最新の HIV 治療についての知識を持っているという点で、養護教諭よりも専門性を持って生徒に指導できると思うので良いと思う。自分自身は、養護教諭として出前講義をきっかけに性に関することに興味・関心を持ち始めた生徒に対して、正しい知識を伝えられるようにしっかり学び続けなければならなかったと感じた。地域の医療機関と連携して、子どもの成長をよりよくサポートできる養護教諭になりたい。
- ㉑ 将来養護教諭になった時、自らが授業をしたり、出前講義をお願いして、していただくこともあると思いますが、「看護職」という専門の方がしていただくというだけでも、臨み方や説得力等も変わるので、子どもに向けてだけでなく、教員に向けても良い影響があると思いました。
- ㉒ 医療の専門の方が話をするということは、子どもたちにとって非常に大きな意味があると思います。また、それを有効にするためには、学校と講義者、地域との連携や日頃の教員のふるまいが不可欠だと感じます。
- ㉓ 養護教諭を志望する者として、自分自身もしっかり HIV/AIDS について学んでおくことは講義を行っていただく前や、その後の子どもたちの疑問と向き合っていくためにも非常に重要であると感じました。職場の理解については、養護教諭一人ですべての子どもたちの健康を支えていくことは難しいため、必ず理解・協力していただくことが必要であると考えます。出前講義をしていただく意義や高校生の時期からの AIDS や性感染症予防法を知ることの意義について、養護教諭が発信できるようにしていきたいです。
- ㉔ 実際に養護教諭の方の体験談を少し聞いたことで、周りに批判的な声があっても、自分が正しい知識を持っ

ている上で、おすすめするものであれば、押し通す力も必要だと感じました。是非看護師の方に出前講義をしていただきたいです。

② 研修全般や HIV 看護についてのご意見をお書きください

(第 18 回)

- ① あっという間の 2 日間でした。これから取り組みたいと思えることが増えてきたと思います。ありがとうございました。
- ② ふだん HIV の方とかかわることがほぼなく、AIDS パニック当時の知識しかなく、今回の学びでとても充実したものになった。性に関する意識や偏見などとても学びの多いものになりました。
- ③ HIV (+) を受け入れる側のお話、自身が (+) という方の貴重なお話ありがとうございました。京都府からたくさん来られていたので、次回は市のメンバーをたくさん動員したいと思いました。「セックスはふつうの大人の日常生活」この言葉は中学生にはショックかもしれませんが、かつての大人が隠してきたことを我々世代は伝えられる大人にならなくてはと思いました。私もこんなライフワークをもちたかったなあ！
- ④ 色々な講師の方の話をきくことができたのが良かったです。様々な最新の情報や知らなかった事を得る事ができとても良かったです。現場でも生かしていきたいです。
- ⑤ とても、充実した内容で 2 日間学ぶことが出来ました。まだまだ「完ぺき！」とはいきませんが、これからも学ぶことを続けながら今日学んだことを、同職種や地域へ、そして日々関わる患者さんへ活かしていきたいです。本当にたくさんの事を学ばせていただき、学ぶ事が楽しい 2 日間でした。ありがとうございました。
- ⑥ HIV 陽性者の方の話では、どのように感染し、どう感じたか、医療者に何を求めたいか等具体的なことがきければ、今後の自分の求められる役割について具体的に考えられたのではないかと思います。概論が多い印象だったのが残念。
- ⑦ 性に対してオープンな講師の先生方の態度に触れ、自分自身も性に対して考えられる時間を持つことができ良かったです。研修を通して対象者の自己決定を尊重していることが講義から理解できました。ワークショップは面白かったです。多くの方に体験していただきたいです。
- ⑧ 今まで、病棟で実際の HIV、AIDS 患者さんのケアに当たりながらも、学生時代に習った古い知識やあいまいな情報だけしかなく、なんとなく関わってきていたのですが、今回研修を通して学んだことでもっと自信をもって HIV、AIDS に対する差別や偏見の強い京都の現状を少しでも変えていく一石を投げられればと思います。

- ⑨ LGBT に対するメディアの露出が多くなってきているため、理解はしていたつもりであったが、パーセンテージで少ないということ、少数と言うことで差別されてはいけないし、他と違うことで差別してはいけないと思った。自分が実際に関わることなので実りのある講義だった。ありがとうございました。
- ⑩ 病名告知後の患者の思いに寄り添うために知識を深め支援できればと思いました。今回の研修にて正しい知識を得たことで、今後の看護に生かしたと思いました。
- ⑪ 看護職であっても HIV のことについて知識不足であったことを改めて理解することができた。今回学んだ事を看護職だけでなく、チーム全体に広げていき HIV 陽性者への支援をしていきたいです。
- ⑫ 内容が充実していて楽しく学ぶことができました。これだけの内容を無料提供できるのは素晴らしいと思いました。HIV の治療が進み、慢性疾患であると考え、もっと多くの看護職に学んでほしいと思いました。
- ⑬ 自分自身の知識が AIDS パニックで止まっていて、医療者として恥ずかしかったです。HBV, HCV, MRSA・・・色々な感染症に日々触れていて、正しい知識がどれだけ大切かを理解していたつもりでしたが、今回の研修で、まだまだ自分自身が気付かない偏見を持っていることに気づかされました。HIV も他の感染症と同じなんだと心の緊張がとれた気がします。
- ⑭ 研修全般、本当に学びが多く良い経験ができました。HIV 陽性者とお会いすることが初めてだったので、HIV 陽性者とお話することで、より身近な存在としてとらえることができたことが最大の学びと感じた。行政の保健師として HIV 等の知識をしっかりと啓発していく必要があると改めて感じた。
- ⑮ 色々なタイプの講義があって、あっという間に時間が過ぎました。佐保先生のサラッと性のことを話す雰囲気、とてもステキだと思います。性のことはあたり前のことなんだと、自然に感じられました。薬害エイズの講義は、もっと歴史など知っていききたいな、知らないな、きいけないなと思いました。
- ⑯ HIV、エイズについて学習する機会がなく、今回の研修で様々な知識を知り、自分の HIV・エイズについての理解や知識の古さや不十分さに気付かされました。看護師として、HIV 陽性患者様と関わる時に今回の研修で教えて頂いた知識を活かしたいと思います。また、職場のスタッフへも研修の内容を伝えていきたいと思っています。
- ⑰ HIV・エイズに対して、知識が乏しかったので、とても勉強になった。予防教育について、ワークショップを通して学ぶ、考えることが自分自身でできたため、今後の HIV 予防教育に取り入れていきたいと思った（現在やっているものは、パワポとクイズのみなため）今回学んだ事を活かして、今後 HIV 予防教育に行っていきたいと思った。
- ⑱ セクシュアリティの多様性を理解することが、性教育を行うこと、また、HIV 感染蔓延防止に極めて重要な要因だと思います。今回の研修会では、当事者の話を直接聞くことが出来るなど、その点とても意義のある研修を受けることが出来ました。
- ⑲ HIV/AIDS に関するだけでなく、性の多様性など幅広いことを学べたので参加して良かったと思いました。仕事の中で高校生に伝えるときのポイントや、いかに陽性となられた方をどのように支えていくかという点にも理解を深めることができてよかったです。
- ⑳ 昨日の性の多様性の話を聞いて、LGBT は難しいと感じたが、LGB/T の説明を聞いて腑に落ちたことがあった。これまでちゃんとした性教育を受けてこなかった？と感じた。性教育（自治体内の）の実態も知ってみようと感じた。コンドームの正しい使い方は個人的にも参考になった。これまで HIV 業務には、あまり携わってこなかったが、副担当として（主担当不在の時など）関わっていきたく感じた。
- ㉑ 全体の話を通して、自分の HIV への知識や理解の足りなさを実感でき、研修を通して HIV の知識、感染者の方との関わり方、治療・心情などを知り、HIV 感染した方がどういう生活をしていくのかを想像することができるようになりました。保健所は検査をして病院につないでいくまでが主となりますが、最初に陽性だと伝える際に患者の方が落ちついて今後を考えられるように、こちら側も落ちついて対応していくことが必要だなと思いました。かたよった視点ではなく広く物事がみられるようにこういう人がいるという知識をもって心をひろげてみる視点があるなと思いました。2日間ありがとうございました。
- ㉒ 今回、2日間の研修に参加させていただくことができて、本当に良かったです。看護師でありながらも、HIV や AIDS、また性の多様性について、いかに知らない事が多かったのかということを感じ知らされました。HIV や AIDS の患者さんと関わる中で、患者さんの苦悩であったり、思いについてこれまでは聴くことしかできなかったのですが、今後は少しずつ自分が学んだことを活かしたり、情報提供なども行っていけたらいいなと思いました。まだまだ学習を深めていきたいと思っています。本当にありがとうございました。
- ㉓ 幅広い講師陣の研修を2日間で受けることができて、参加させていただいて本当にいろいろ学ばせていただきました。保健所の業務の中で、HIV 検査の受検者への対応や高校生への予防教育についてぜひ活かしていきたいと思っています。
- ㉔ 病気のことや統計的な知識を学ぶと同時に、自分の中で HIV に対しての間違った認識を持っているということも知れた。HIV の看護の中で性の話をすることは必

須であるが、まだ私の中でそういう話は恥ずかしいと思う気持ちも大きいので少しずつ慣れ、大事なことを伝えられるようにしていきたいと思った。偏見や私のように間違った認識を持っている人は身近にもたくさんいるため、力を入れず語れたらと思う。

- ②5 2日目、HIV 陽性者支援について。扱いにくいとは思いますが、先人の方々の苦労等は十分に理解できたものの、現在同性婚等の実現に向けて活動をされている方々への批判や、特定の政党の意見のみを正しいものとして伝えるのは、このような研修の場ではタブーではないかと強く思いました（公平性が求められるのでは・・・）。LGBT に対して日本が寛容であるという話も。実体験として照らし合わせた場合全く同意できませんでした。他の受講者の方が、どのように受け止めたのかとても気になりました。（個人的にはボトムアップとトップダウン、同時進行が必要だと思っています。）
- ②6 HIV の現場に最前線で関わられている方の講義ばかりで、とても興味深く勉強になった。また、今まで日本の予防教育については話を聞いたことがあったが、タイでの予防教育についてのお話を伺えたのがとても印象的だった。ピアサポーターの意味が短い動画でも伝わってきた。今後の HIV 業務に活かしたい。
- ②7 HIV、AIDS に切り離せない、SEX や性病も含め、幅広い講義内容と様々な立場の方の話、体験を伺うことができ、自身の視野の狭さを知ることができました。ありがとうございました。
- ②8 正しい知識を得ることで理解が広がっていくこと、啓発活動の大切さを改めて感じました。2日間大変有意義でした。ありがとうございました。
- ②9 考えてみれば当然のことなのですが、人の数だけ背景や自分自身に対する感情や受け止め方があると感じたので、それに柔軟に応じられる人になればと思いました。
- ③0 予防教育をすることに不安感が強かったのですが、今回の研修を受けて、中高生に対し、正しい知識を伝えていきたいという気持ちになりました。
- ③1 病棟で HIV 陽性患者さんと関わる機会があり、知識を深めたいと思い参加させていただきました。研修全体を通して興味・関心を引く内容で新たな知識を取り入れながら自身の知識の再確認を行うことができました。身体的・精神的・社会的など様々な苦痛を抱えているのは全ての患者さんに共通していますが、HIV 陽性患者の場合は社会的背景に大きな苦痛をかかえられていることが学べたので、苦痛に寄り添うような看護につなげていきたいと思いました。

（第 19 回）

- ① 今回の研修で、HIV 看護を実際にされている方や HIV ウィルスに感染されている当事者の方等の話を聞くことが出来て、とても勉強になりました。参加することが出来て本当によかったです。ありがとうございました。
- ② 以前から性に対して、様々な人がおり、批判的な目で見ることはないようにしてきたが、実際に LGBT の方や HIV になられている方、HIV の歴史などの話を聞くことで、具体的なことや思いが分かり、研修前より LGBT や HIV、その歴史や看護のことについて理解が深められたと感じた。タイやミャンマーなど国外に出て仕事をされていることは今までの生活とかなり違うと思われる中、やりがいを持って仕事をされているようでありすごいと感じた。
- ③ 性的マイノリティは LGBT という枠だけでなく、多様性があること。水交換試験のリスクとして、いじめにつながる可能性があるということ。性教育をするうえで、上記以外にもたくさん気が付いたことや、とりいれたいと思うことがあったので今後活かしていこうと思います。
- ④ 今回の研修では、性の多様性から HIV/AIDS のことまで、幅広いことを様々な角度からのお話を聞くことができて、とても貴重な経験が出来ました。ありがとうございました。
- ⑤ 大変充実した2日間でした。学びの機会をいただきありがとうございました。
- ⑥ 現場で働く Ns や Dr からの HIV 患者の症状や現在の状況を知ることが出来てよかったです。実際に関わっておられる方の話がリアルで今後の課題など（HIV 患者の高齢化など）を考えると、多方面でのかかわりが必要だなと思いました。
- ⑦ 研修を通して HIV について、いろいろな分野で活動されている人の話を聞くことができました。HIV そのものについての科学的理解だけではなく、実際にどういう風に予防教育していくのか考える機会となりました。
- ⑧ 私自身の HIV についての知識が数十年前より全くアップデートされていない状態での今回の参加となりました。そのため学ぶことすべて新鮮で勉強になりました。やはり知ろうとしないこと、知らないということが一番理解を遅らせる事につながると思いました。又、性というものについても同性愛や性同一性障害の方がいるということは知っていたり、周りにもそういう方がいらっしゃると思いますが、その中で多様性や複雑化していることも知り、男・女・それ以外という大まかなくくりで人との関係を築いていくべきではないと感じました。こんなに「性」というものについて考えたのは、この2日間が人生で最大だったと思います。

- ⑨ 正直 HIV なんて自分には程遠いところにある話だと思っていました。でも実際には私が知らないだけで周りにだっているかもしれないし、これから先看護師を続けていく中で出会うかもしれない。そうなったときに適当な言葉で不安にさせたり、傷つけたりしないよう、もう一度勉強し直したいと思いました。様々な職種の関わりや連携があって予防や治療、教育など成り立っているということを知りました。看護師の立場として今できることを自分なりに考えたいと思います。
- ⑩ 今や慢性疾患とよばれるまでに医療は発展している中で自身の認識をさらに変化させていくことができました。周囲が HIV の新しい (正しい) 知識がないことで生きずらさを感じている人がいることを忘れてはならないと思いました。講義の中で赤ちゃんを抱っこしながらスマホを使うお母さん、HIV 管理をしている妊婦の繰り返す妊娠に対して私は前者のお母さんが出産した喜びを支援してくれたみんなに感謝の気持ちで伝えたかったのかも知れないし、お母さん自身が虐待を受けて育ったかもしれない、だったら生まれてすぐ抱っこしていることはすばらしいことです。後者の夫婦は HIV が分かっても、SEX というコミュニケーションを図ることができているのはすばらしいと思いました。正しい知識がない医療者の偏見で患者が苦しんでいる現状を理解されている医療者の方々からの言葉が気になりました。今回、今後医療職や 10 代に関わる学生さんも多く受講されています。弱い立場にいる Pt や若年者に関わっていく私たちは見えているものだけでなく、その背景にある見えないものを見ていかないと支援につながっていかないと感じています。HIV 看護も同じだと思いました。ありがとうございました。
- ⑪ 私は血液内科に所属しており、血液内科が HIV の診療を行っているため、HIV 陽性患者と接する機会は多いが、じつ臨床でどう接すればよいかわからない。少し HIV = 同性愛者という偏見があったが、HIV を持った人とその人の個性としてとらえて関わっていきなりたいと思う。また、病棟内にある少し偏った見方をかえることができればいいなと思いました。HIV と AIDS が違うということを知れて良かったです。HIV 陽性者の両親への未告知患者への接し方が難しいなと思いました。
- ⑫ 今回最新の情報や考え方を知ることができ、ぜひ日々業務で携わる中で役立てたいと思います。特に LGBT について理解し、受け入れることができていると自分で思っていたのですが、もっと奥が深いことが分かり、難しさも感じました。ありがとうございました。
- ⑬ 無料で研修を開いてくださりとてもありがたいです。貴重な講義を開いてくださりありがとうございました。HIV は誰しもがなり得るもので、人を看護する自分にとって必要不可欠な知識だと感じました。
- ⑭ どのように健康教育をしているのか、内容を見ること
- ができてよかったです。また HIV についてだけでなく、LGBT についても知識を得ることができたのですごく勉強になりました。2 日間ありがとうございました。
- ⑮ HIV の最新治療について、性の多様性など、広く知識を得ることができました。この知識を少しでも他に伝えていけたら良いなと思いました。仕事をする上でも活かしていきたいです。
- ⑯ 研修を通して色々な立場の人から色々な講義をきくことでとても勉強になりました。2 日という短い時間の中で広い視野を持って HIV を学ぶことができ、参加してよかったです。知らないからこそ怖がったり、適切に対処できないこともあったので、自分が学んだことを整理して、周りにも知識を広げたいと思います。
- ⑰ HIV 当事者の方や、保健所・Ns など様々な分野の人から HIV について講義していただく機会をいただいたことで、HIV のことや HIV にかかった人達のことやどういいう支援・関わりが必要かを学ぶことができたと思う。また、実践やワークショップなどもあり、楽しみながら実践的な技術が身につくとともに、理解することができたのでよかったです。この研修会を開催して下さいありがとうございました。
- ⑱ たくさんの先生方から話を聞けて、色々な方向から HIV について学ぶことができました。私はチームで仕事しております。2 日間の学びをチームで共有し、職場での対応を考えたいと思います。HIV の検査を受けようと TEL をくれて、検査に来た方の思いをあまり考えられてなかったなと反省・・・です。
- ⑲ 大学の授業で HIV/AIDS について学んできましたが、ここまで深く学んでこなかったもので、今回の研修で多くのことを学べて良かったです。粘土を用いて「性」を表現しましたが、それぞれの人にそれぞれの考え方があって、本当に「性」は多様性のある物だと思いました。「女」や「男」が体や心の中で限定されるものではなく大きな枠組みで、昔と違って様々な考え方ができてきているこの世の中だからこそ、それぞれが尊重されていければいいなと思いました。大学で様々な知識を得てもまだまだ足りなかったものがあつたと自覚したということは、中高生はもっと知識がないなかで「性行為」を行ってしまうと思うので、学校で専門的な知識を有している私たちがしっかりしないといけないと思いました。2 日間貴重な時間を頂きありがとうございました。
- ⑳ 研修の内容がとても充実していて本当に勉強になりました。HIV の進行を遅らせる薬は今や 1 錠でよくなり、予防薬まで出てきているのは知らなかったし、いつか完治できるようにさらに医学が進歩してほしいなと感じました。保健師さん看護師さんなど様々な職種の方と同じ研修を受けることができ、それぞれの役割を再認識しました。もう少し他の方々と交流出来たらよかつ

たかなと思います。この研修をきっかけにさらに性に関する知識を深め、自信を持って性教育できるように頑張りたいと思いました。ありがとうございました。

- ⑳ 性についての話は、いつ、どんな時でも難しいものだと思います。しかし、とても大切なものです。一言でLGBTや性別といってもそこに分類されるわけではなく、生物学的に男女と言われても、そこにも当てはまらないものがあります。なぜ性別というものが存在するのか常に疑問です。相手がだれであれ、その人と愛し合うことはとてもすてきなことなので、HIV等の予防をしっかりして、誰もがどんな人とでもオープンに愛し合える時がきたらいいなと思いました。
- ㉑ 研修では、学術的なところから現状のことまで様々な視点からお話を聞けて、とても勉強になりました。
- ㉒ HIVやAIDSについて勉強したから知っていると思っていたことでも、最新のデータや治療の進歩についてなど知らないことが多く、慢心せず日々情報や知識をアップグレードしていくことが重要であると感じました。また、今回当事者の方のお話をたくさん聴くことができ、自分の中で学びがとても深まりました。参加させていただくことができ本当によかったです。2日間ありがとうございました。
- ㉓ 薬害エイズのことなど、初めて聞いたものに関しては、現在の法律や制度とつながっている所もあり、なるほどと思いました。まだまだ時代は常に変化していて、新しい情報をしっかり仕入れる事こそが、教育につながるのだと思います。HIVの知識はしっかりつきました。LGBTに関しては、教員採用試験で勉強した法律を実際に作った一人である方にお話を聞くことができ、感慨深いです。「LGBTの中でも、1人1人ちがう」というのは、自分自身が不安障害っぽいものを持っていることもあり、症状が様々なのと同じで、すごく納得がいきました。貴重な2日間をありがとうございました。

第19回 HIV サポートリーダー養成研修 調査票

研修、お疲れ様でございました。この調査は、皆様のご意見を取り入れて、次年度の研修計画の検討をおこなうために実施するものです。この調査の結果については、厚生労働科研の報告書や関連学会で発表する予定ですが、個人が特定されるようなことはありません。報告書は次年度の6月に研究班のホームページにアップされ、PDF がダウンロードできますので、ご確認ください。記入後の調査票を、回収箱に投入していただくことによって、調査への同意とさせていただきます。同意しない場合は、破棄してください。

次の1～3について、項目ごとに該当する番号に○印をつけてください。

1. 研修目標の達成度について

研修目標：セクシュアリティ、HIV 感染症について広く学び、HIV 陽性者への初期対応、高校生への HIV 予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る

1 達成できた	2 ほぼ達成できた	3 一部達成できた	4 達成できなかった
---------	-----------	-----------	------------

2. 講義の内容の理解について

	【理解の程度】	
	1. 理解できた	2. ほぼ理解できた
	3. 一部理解できた	4. 理解できなかった
1 日目	近畿・大阪の HIV 感染の現状	1・2・3・4
	性の多様性・思春期のセクシュアリティ（健康課題）	1・2・3・4
	HIV の最新治療	1・2・3・4
	薬害エイズ	1・2・3・4
	コンドーム達人講座（知識と技術）	1・2・3・4
2 日目	HIV 陽性者の理解と初期対応	1・2・3・4
	DVD を使用した出前講義	1・2・3・4
	若者への HIV/AIDS 予防教育	1・2・3・4
	HIV 陽性者の支援（地域、ピア）	1・2・3・4

3. 研修前後の自分自身の態度の変化について

	1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. まったくそう思わない	
	研修前	研修後
1 性のことを人前で話すのは恥ずかしい	1・2・3・4	1・2・3・4
2 自分自身の性についてきちんと向き合っている	1・2・3・4	1・2・3・4
3 HIV 看護について興味を持っている	1・2・3・4	1・2・3・4
4 性欲は基本的な欲求の一つであり大切にしたい	1・2・3・4	1・2・3・4
5 HIV 予防教育の出前講義に積極的に関わりたい	1・2・3・4	1・2・3・4
6 セクシュアルヘルスの増進について学びたい	1・2・3・4	1・2・3・4
7 職場で、HIV 陽性者のケアへの準備をしたい	1・2・3・4	1・2・3・4
8 グローバルな広い視点で看護を考えている	1・2・3・4	1・2・3・4
9 他者と深く関わることは喜びである	1・2・3・4	1・2・3・4

4. 看護職が地域の高校生に出前講義をおこなうことについて、職場の理解・自分自身の課題など自由にご意見をお書きください。

5. 研修全般や HIV 看護についてのご意見をお書きください

調査票へのご記入をありがとうございました。

第18回 HIV サポートリーダー養成研修

研修目標	セクシュアリティ、HIV 感染症について広く学び、HIV 陽性者への初期対応、高校生への HIV 予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る		
期 間	2019年6月21日（金）～6月22日（土）		
対 象	医療職・看護職・心理職・介護職・歯科衛生士・養護教諭・看護学部生等		
場 所	大阪府看護協会 桃谷研修センター		
募集人数	男女30名	受講料	無料（交通費は自己負担）

プログラム

		講義名	講師名	施 設
第1日 金曜日	9:30-10:30	HIV の最新治療	白阪琢磨	国立大阪医療センター エイズ先端医療研究部長
	10:40-11:30	近畿・大阪の HIV 感染の現状	新海のり子	大阪府健康医療部 保健医療室 医療対策課
	11:40-12:10	地域HIV看護の質の向上への戦略 受講者自己紹介	佐保美奈子	大阪府立大学看護学研究科 准教授
	12:10-13:10	昼休憩（60分） DVD 上映 「本気で CONDOMING」「介護職向け」		
	13:10-14:20	性の多様性	佐保美奈子	大阪府立大学看護学研究科 准教授
	14:30-15:20	薬害エイズ	早坂典生	NPO 法人りょうちゃんず
	15:30-16:30	コンドーム達人講座（知識と技術）	立花久裕	訪問看護ステーション 町の看護師さん八尾管理者
第2日 土曜日	9:30-10:30	HIV 陽性者の理解と初期対応	豊島裕子	大阪市立総合医療センター HIV 専従看護師
	10:40-12:00	DVD を使用した出前講義	大野典子	日本生命病院看護部 感染症看護専門看護師
	12:00-13:00	昼休憩（60分） DVD 上映 「看護職向け」「養護教諭向け」		
	13:00-14:40	若者への HIV/AIDS 予防教育	牧之内純子	ピープルズ・ホープ・ジャパン
	14:50-15:40	HIV 陽性者の支援 （地域、ピア）	繁内幸治	BASE KOBE 代表
	15:50-16:30	まとめ 受講内容証明書・修了バッジ 授与		

本研修は、日本エイズ学会の HIV 感染症研究会の教育研修単位認定（学会認定医・指導医および学会認定 HIV 感染症看護師・指導看護師、3 単位）の対象であり、厚生労働省エイズ対策政策研究事業、「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」（研究代表者：白阪琢磨）の分担研究「HIV 看護・介護の質の向上と学校での HIV 予防教育実践に関する研究」（研究分担者：佐保美奈子）の研究費により、（公社）大阪府看護協会の協力を得て、開催されているものです。

第19回 HIV サポートリーダー養成研修

研修目標	セクシュアリティ、HIV感染症について広く学び、HIV陽性者への初期対応、高校生へのHIV予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る		
期 間	2019年10月4日(金)～10月5日(土)		
対 象	医療職・看護職・心理職・介護職・歯科衛生士・養護教諭・看護学部生等		
場 所	大阪府看護協会 桃谷研修センター		
募集人数	男女30名	受講料	無料(交通費は自己負担)

プログラム

		講義名	講師名	施 設
第1日 金曜日	9:30-10:20	近畿・大阪のHIV感染の現状	吉田あゆみ	大阪市保健所感染症対策課 副主幹
	10:30-11:30	HIVの最新治療	白阪琢磨	国立大阪医療センター エイズ先端医療研究部長
	11:40-12:10	地域HIV看護の質の向上への戦略 受講者自己紹介	佐保美奈子	大阪府立大学看護学研究科 准教授
	12:10-13:10	昼休憩(60分) DVD上映「本気でCONDOMING」「介護職向け」		
	13:10-14:20	性の多様性	佐保美奈子	大阪府立大学看護学研究科 准教授
	14:30-15:20	薬害エイズ	早坂典生	NPO 法人りょうちゃんず
	15:30-16:30	コンドーム達人講座(知識と技術)	立花久裕	訪問看護ステーション 町の看護師さん八尾管理者
第2日 土曜日	9:30-10:30	HIV陽性者の理解と初期対応	豊島裕子	大阪市立総合医療センター HIV専従看護師
	10:40-12:00	DVDを使用した出前講義	大野典子	日本生命病院看護部 感染症看護専門看護師
	12:00-13:00	昼休憩(60分) DVD上映「看護職向け」「養護教諭向け」		
	13:00-14:40	若者へのHIV/AIDS予防教育	南部道子	ピープルズ・ホープ・ジャパン
	14:50-15:40	HIV陽性者の支援 (地域、ピア)	繁内幸治	BASE KOBE 代表
	15:50-16:30	まとめ 受講内容証明書・修了バッジ 授与		

本研修は、日本エイズ学会のHIV感染症研究会の教育研修単位認定(学会認定医・指導医および学会認定HIV感染症看護師・指導看護師、3単位)の対象であり、厚生労働省エイズ対策政策研究事業、「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」(研究代表者:白阪琢磨)の分担研究「HIV看護・介護の質の向上と学校でのHIV予防教育実践に関する研究」(研究分担者:佐保美奈子)の研究費により、(公社)大阪府看護協会の協力を得て、開催されているものです。